

答申の方向性について

これまでの議論の概要

- 次期計画では、大きな枠組み、コンセプトは変えなくても、国の方針が変わった事項は盛り込むべき。
- 世の中の変化に応じて、導入可能な考え方や指標は、積極的に取り入れていくべき。

- 発生抑制は温暖化対策にもつながる重要な取組。
- 行政や公共の役割としては、市民や事業者が動きやすい環境をどう整えていくのかという視点が重要。
- 国の方針において、東日本大震災を踏まえ「強靱化」の視点が加わった。次期計画において、災害時の廃棄物処理やエネルギー供給の在り方を含め、強靱化の観点を基本方針に盛り込むべきではないか。
- 現計画の基本方針の一つの視点に「経済」があるが、実際の施策や事業の実施において、コストを意識した取組が少ない印象。

- 2R 優先の観点から、資源物もまずは排出抑制が必要である。
- 市民の取組成果を評価するため、民間ルートを含めた資源化量を把握できないか。
- 国の方針の中でコストやエネルギーの効率化が言われている。このような視点での指標や目標が必要ではないか。

答申の方向性（案）

次期計画の基本的な考え方

- 現計画の取組成果が総体として順調であるため、大きな枠組みは踏襲
- 国の方針や今後の社会動向を踏まえ、新たに取り入れるべき事項は追加

基本目標

- 現在の基本目標「環境低負荷型資源循環社会（都市）の実現」は、国の方針や札幌市のまちづくり戦略ビジョンと合致するため、基本的な考え方は維持

基本方針

【取り入れるべき考え方】

- **3Rの更なる推進**
 - リデュース（排出抑制）・リユース（再使用）の2Rを優先した取組
 - リサイクル（再生利用）における分別・排出の質の向上
- **市民・事業者との連携**
 - 札幌市が市民と事業者のコーディネーターの役割を担う
 - 関係団体や事業者との連携・協力によるごみ減量・資源化の促進
- **効率性の向上**
 - 天然資源消費量の抑制や温室効果ガス排出量の削減などの環境効率性
 - 廃棄物処理のコスト効率性、エネルギー効率性
- **安全・安心**
 - 大規模災害に備えた廃棄物処理システムの強靱化

管理目標

【取り入れるべき考え方】

- 2Rの取組を評価するため、資源物を含め廃棄物総量を削減する目標
- 市民や事業者の取組を評価する視点に立った目標
- コスト効率化やエネルギー効率化の視点に立った目標

参考：国の方針等

国の方針（廃棄物処理法基本方針）

【課題】

- これまでと同様、排出量の高水準での推移、最終処分場新規立地難、不法投棄等の不適正排出の撲滅
- 2Rの取組の遅れ、有用資源を回収する取組も不十分
- 国民の安全・安心に関する意識の高まりへの対応
- 世界的な資源制約の顕在化
- 災害の頻発化・激甚化
- 地球温暖化を始めとする地球環境問題への対応

【方向性】

- 循環型社会のさらなる推進
- 基本原則（①排出抑制、②再使用、③再生利用、④熱回収、⑤適正処分）に則った処理
- 災害廃棄物については、適正処理を確保し、可能な限り分別、選別、再生利用による減量を図った上で円滑かつ迅速な処理を確保
- 低炭素社会・自然共生社会との統合にも配慮した取組推進
- 循環資源の種類に応じた適正な規模で循環させることができる仕組みづくりの推進
- 循環共生型の地域社会の構築に向けた取組推進

札幌市まちづくり戦略ビジョン

【ビジョン編】

基本目標

資源やエネルギーを有効活用するまちにします。

将来のまちの姿

ごみの減量・リサイクル・再利用が積極的に行われており、資源循環型の社会になっています。

【戦略編】

- 市民や事業者の自主的な取組の推進
- 資源化の促進
- 清掃工場における廃棄物発電や熱利用の推進
- 近隣市町村との協力体制の充実